

平成 20年度 第 4 回上田中央地域協議会次第

平成 20年 7月 28日 (月) 13時 30分

上田市中央公民館 2階第一会議室

1 開 会

2 会長あいさつ

3 会議事項

(1) 第一期上田中央協議会提出意見書、及び回答書について

(2) 今後の上田中央地域協議会の独自審議内容について

(3) わがまち魅力アップ応援事業選考審査の意見書に対する回答について

(4) その他

4 その他

| | |
|----------|---------------------------|
| まちづくり協働課 | 地域振興政策幹(中央公民館長)22-0760 |
| 〃 | 地域協働担当係長 22-4100(内線 1703) |

平成20年度 中央地域協議会独自審議内容(案)

< 委員から出された意見のまとめ >

1 新市の核となる都市機能の充実と中心市街地の活性化

全般

新市の核となる都市機能の充実と中心市街地の活性化。
新市の核となる都市機能の充実と中心市街地の活性化。(「アリオ」への対応、中心市街地の回遊性)
中心市街地活性化を含めた都市開発。
「市街地の活性化」とは、「どういうものなのか」「今後どうあるべきか」の再検討。

必要な施設

公共施設の立地及び内容について検討・調査研究。
市民をはじめ内外の人々が集まる「核」となる施設として「ふるさと上田物産館」の創設。
郷土が生んだ先人・偉人を顕彰する学習の場としての映像を主とした偉人館(先人館)が必要。
活力あふれる賑わい交流の拠点・魅力あふれる生鮮食料品店、日常雑貨店、駄菓子店、書籍販売店。
旧一中跡地の有効利用。(保健センター以外の敷地)
1ヶ所で様々な観光需要に対応可能な観光案内所の設置。

人の流れ

中央地域への若い世代の定住者確保の充実。
JT跡地開発により人の流れは大きく変わり、車での移動が増加することによる、駅周辺への影響。
上田城跡公園の今後、及び中心市街地(旧来の)との回遊策等の検討。
歴史的な資源を観光と結びつけたコースづくりと、人の流れの誘導。

2 歴史的な資源を保全・活用したまちづくり

上田市の特徴を把握し、それを生かしたまちづくり。(歴史・学生・自然・外国籍市民)
歴史的な資源の活用と合わせて、人々が歩いて楽しめる街なかの小路等々の調査。
しなの鉄道上田駅、国分寺駅、大屋駅を拠点とし、旧北国街道沿いにある歴史的遺産である上田城・国分寺史跡公園・東御市海野宿等のベルト地域への誘客を図る方途の調査研究。
「国分寺史跡公園」を活用した観光振興。
伝統工芸(農民美術、上田紬など)や歴史的な資源(人物も含めます)を観光資源として捉えているが、多くの市民がそのことに誇りと自信を持つ方途の研究。
“映画の町上田”の今後について検討。
上紺屋町における歴道の早急な整備・木戸の設置。(上紺屋町、下紺屋町境)
上・下川原柳町間に江戸時代末頃、矢出沢川の元に番屋があったとの事で(今も番屋跡)歴道として番屋の設置。

町名が歴史を物語る。(現在の自治会名での直感的に理解できる町並みのキャッチフレーズ。)
斜面を利用した観光資源。(松尾町・二中坂)地下水放流(例:長野市大門町)

3 市民や来訪者が安心して行き交うまちづくり

アクセス

休日のみの観光めくりの“ぐるりん号”等の運行。
上田公園へ行く道は上田高校の前を通るコースが良いが、周辺の整備も必要。

交通対策

「アリオ」への対応、交通アクセスの検討。
JT 跡地整備と共に堤防道路の交通量も増えるかと思うので、歩道整備等道路の整備が必要。
JT 跡地開発にともなう周辺交通整備。
JT 跡地に出店予定のアリオと文化施設建設に伴う周辺地域(幹線道路等)の交通対策。
二中坂(通称)における通学路の安全対策。
二中坂の歩道拡幅等の道路対策。
上田公園が子ども達が安心して集い遊べる場としての再開発。

防災

防災に関する整備について 「災害弱者救出マップ」の作成。

4 自然環境の保全と共生によるまちづくり

資源循環型社会の構築と可燃ゴミの減量化。
環境問題への取り組み。
神川河川敷内の保全。(自然環境の保全・活用)
染屋台の斜面樹林の保全(多機能緑地帯)CO2対策・森林浴。
コンビニなど24時間営業は上田市にとって必要なかどうかを検討。

5 保健福祉活動拠点の整備と人的資源の活用

保健福祉活動拠点の整備。
岩下地区福祉施設建設。(障害者にやさしいまちづくり)
神川地区保育園。(子育て支援)
一中跡地。古里の旧県営球場。プロをよべるサッカー場。

6 地域コミュニティを中心とした協働による地域を誇れるまちづくり

今後、さらに街なか居住を推進していく上で、従来の住人と新しい住人との融合、新しいコミュニティ作りが課題になると予想される。長い年月の中で形成されてきた地縁組織とは、異なるアプローチ、手法も必要になると思われるので、同様の課題を経験した他地域の事例や課題の研究。世代別人材（人財）をいかに連携し、世代間の問題に取り組むことが重要なので、人材の有効活用を推進し、時間をかけて人を育成しながら、地域住民であることに誇りを持てるプランの推進。現状の公民館活動の充実と美術館、博物館等の学芸員による青少年教育の推進。

7 産学官連携支援施設や伝統工芸など地域の特性を生かした産業の振興

産学官の連携は進行し新たな局面を迎えているが、今後は中央地域に点在する学校を機軸として、学校全体の交流の充実を模索。（大学生・高校生・中学生・小学生）
降水量の少ない上田地域の特長を生かした産業振興と地場産業の検討。（上田紬・真田ひも）

その他

上田中央地域は広域なため、上田駅を中心とした市街地と、神川地域では地域課題も異なるため、今後、地域協議会の分割・独立についての検討が必要。
市立図書館の利用について、市内小学校はネット回線により、予約・配本が行われている。図書館に近い学校は、対象から除外されているが、対応が必要。